

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	その他専門店 〔酒〕（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて8月は長期休暇もあるため当然売上が伸びるが、特筆すべきは、長いお盆休みの後の月末まで売上が伸びていたということである。単価が上昇している上で、そのような現象が発生した。
	◎	遊園地（職員）	来客数の動き	・お盆期間は好天にはならなかったものの、花火イベントやアニメ企画の実施に加え、新エリアのオープンが集客に寄与し、好調な推移となった。
	◎	その他サービス 〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月は葬儀、遺品整理、仏壇の処分、墓じまいなど、まんべんなく依頼があった。
	○	自動車備品販売 店（従業員）	お客様の様子	・前年と比べると来客数の減少傾向は続いているが、商品の値上げ前ということに加え、メンテナンス関連商材の販売も好調で、客単価が上がっている。
	○	都市型ホテル （スタッフ）	お客様の様子	・前月から改善の兆しがみられるなかで、今月は更に改善、伸長する方向にある。長期休みの人が多いこともあるが、月を通して人の流れがあり、節約するというより消費に対する積極性がみられる。
	○	その他レジャー 施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・記録的な猛暑により、室内で涼しく遊ぶことができるボウリングが選ばれたのか、家族連れや若者でにぎわっている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・毎年のように夏はいろいろな行事を実施して客を集めており、若い人たちはかなり出てくるにはなったものの、買物は大型店に行ってしまう傾向にある。人出があっても売上にはつながっていない。
	□	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・8月の売上は、前年を超える見込みである。夏休み企画の催事が好調であったことが要因である。猛暑に伴い総菜や日配品も堅調に推移している。また、宝飾と外商法人にて大口取引もあった。ただし、いまだ世界情勢、物価高の影響は根深く、好転してきているとまではいえない。
	□	百貨店（店長）	販売量の動き	・残暑の影響で夏物消化にはプラスの状況であるが、想定範囲内であり、消費の勢いに加速はみられない。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数が安定し、買上点数は前年並みのため、単価が上昇した分、売上が増加している。
	□	スーパー（経営者）	販売量の動き	・前年比では、売上は24%増加、来客数は2%減少している。4月以降は外販が増えたため、忙しくしている。この暑さからか、来客数は落ちているが、幸いなことに弁当の注文が多く入っており、今週末は大型イベントやサッカーで計198個の注文が来ている。来週も秋祭り、敬老会などの行事の注文があるため、しっかりと準備をしていきたい。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が減少している。一度にまとめ買いして来店頻度を抑えているようで、大パックでのまとめ買い傾向がみられる。
	□	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・暑い日が続いているため、やはり冷たい物関係が相変わらず好調である。とはいえ前年より相当伸びているわけではないため、横ばいである。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・今月は残暑があり、季節商材、白物家電が好調に推移している。ただし、来客数は前年割れである。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・高価格帯の新車に対して客の購入姿勢が慎重になっている。新型イベントがないことも販売鈍化の一因である。
□	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・7～8月はイベントや夏休み、お盆などで人の動きは多いが、そういった動き以外は変わらない、あるいは控えている傾向にある。	
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・良くも悪くもなくそれほど変化もない。いろいろな食材が値上がりし、価格に反映させ続けているが、それで悪くなることもない。楽といえば楽である。	

	□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年の8月は創業以来過去最高の売上となっている。要因としては人件費や物価の高騰分に加え、今まで宿泊業の過当競争で価格を上げられなかった分を見直して料金を上げたため、宿泊人数は変わっていないが、売上が大幅に増加した。しかし、隣接している有名観光地はそれ以上に価格を上げているため、繁忙期限定であるが、まだ価格を上げる余地はありそうである。ただし、最低賃金の上昇が厳しいため、人件費が高騰しており、思ったよりもうかっていない。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・今月の売上は前年比で83%前後となっている。退職者が多く、新しく入社する運転手が少ないことから夜の乗務員が減っており、昼間の売上は相応にあるものの、夜間の客の多くを断っていることが原因である。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・エリア開局はある程度予定どおりの進捗ではあるが、スタッフの減少もあり、思いのほか新規獲得が遅れている。
	□	通信会社（社員）	来客数の動き	・猛暑のため外出を控えている状況は変わらない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・来場者は気候のためなのか増えているが、3か月前とは変わらない。景気が良くなったとはみていない。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月に続いて猛暑のためか日中の人通りが少ない。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・連日の猛暑により、日中外出する人が減っている。
	▲	コンビニ（経営者）	単価の動き	・立地的にお盆に客足が伸びない場所のため、お盆休みが長いと売上が伸びない。今年はお盆休みを長く取れる曜日並びだったため、かなり影響が出ている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の落ち込みが著しい。暑さのためか歩いている客が少なくなっている。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・8月はお盆休みがあり、今年は長い休みが取りやすいということで、期待はしていなかったが、それ以上に余り良くなかった。商材は大分値上がりしているが、販売数が増加していらず、なかなか前年に届かない。
	▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・サービス部門、車両販売部門共に目標を下回っている。車両販売に関しては人気車種のオーダーができないこと、全体的に物価高の影響で個人消費が低迷していること、そして何よりお盆休みが長すぎたことなどが影響している。
	▲	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・物価上昇に伴い支出を抑えているようで、夏休みの旅行も安近短や旅行自体の取りやめなどが増えている。
	▲	観光名所（職員）	お客様の様子	・お盆休みの前半は天候も悪く、客足が遠のいたが、後半はまあまあのお盆であった。登山ブームで登山客が多いがお金は落としていない。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	単価の動き	・お盆だから人の動きはあるが、それでも少ない。
企業 動向 関連	◎	—	—	—
	○	*	*	*
(甲信越)	□	食料品製造業（営業統括）	取引先の様子	・一部のワインコンクールの入賞ワインは人気があるものの、8月31日で猛暑日が今年53日目と相変わらずの暑さが続いており、一般消費者の購買意欲は減退している。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特注受注に加え、自家販売商品及びワークショップの予約数も増加している。
	□	電気機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前とほぼ同じ状態で推移している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量は増えており、工事単価も同一である。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業は米国の関税引上げに対する不透明感がなくなったことで低水準ながらマインドは和らいでいる。非製造業は夏季の観光需要を中心に底堅い。

	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・観光面では、インバウンド需要が盛況であるが、人手不足により受入れが難しい企業もある。
	▲	*	*	*
	×	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・周囲の景気が悪くなっている。仕事量の確保が難しいとか休業を取り入れたという話を度々聞いている。
	×	その他製造業 [宝石・貴金属]（経営者）	受注量や販売量の動き	・お盆休み後に暑さが戻ってきたこともあり、店頭に来客数が少ない。また、暑すぎてジュエリーを身に着ける気持ちは薄れているといわれている。地金高騰の影響でどの会社も余り商品が作れておらず、新商品が少ないこと、また、客の予算は今までどおりのため、予算に見合う商品が提供できないことも仕入意欲が停滞している原因の1つである。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人、月間有効求人共に大きな増減はないが、原材料価格の高騰、今後の最低賃金の引上げなど、厳しいと話す求人数が増えている印象を受けている。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をけん引する製造業において、現場技能求人はあるものの、開発など専門職の求人は採用基準が高く、充足していない。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・人手不足のため、案件は変わらずにあるものの、条件等の出し渋りが多く、マッチングが難しい状況である。元々、人口減少があるなかで、働き手がいらないため、今後ますます人手不足は大変な状況となる。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・長引く原材料や光熱費の高止まりに加え、秋には最低賃金の引上げなどもあり、企業収益の見通しに不透明感が続くことから、求人数は減少傾向を示している。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・7月の有効求人倍率について、当所管内では1.22倍と、前年同月比で0.09ポイントの低下となった。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは15か月連続となっている。
	×	—	—	—